

## 私の看護の現場で思うこと

私の勤務する病院は、田畑に囲まれたのどかな地域にあり、通院している患者さんの多くは地域の方々で高齢の方が多いです。スタッフは子育て世代が多く、突発的な事情や子育ての悩みなどにも皆が快く協力し合い、相談に乗ったりとアットホームな雰囲気を感じます。そういった環境であるから、患者さんやご家族とのコミュニケーションがしっかりととれ、患者さんの個別性を考慮した看護があると常々感じています。特に通院歴の長い高齢患者さんから色々と話を聴いたり、ご家族ともコミュニケーションをしっかりとることで、少しの変化に気付いて対応できていることも多くあります。そこには、日々、知り得た患者さんの情報を看護記録やスタッフ間の連絡ノートを通して、皆が共有し、個々のニーズに対応した看護を提供するために皆で知恵を絞り実践しているチームワークがあるからこそ・・・と思っています。

昨年より定期的に通院されている糖尿病患者さんを受け持ち制で担当するようになりました。今までニーズに対応した看護を心がけているつもりでしたが、患者さんに更に寄り添って対応するようになり、私自身の患者さんの思いを汲み取る力や対応力の未熟さを改めて痛感しました。患者さんに寄り添い、個別性に応じた看護を提供していけるよう、自己研鑽に努めていきたいと思えます。他部署との連携も取りやすく、皆が快く協力し合える環境で感謝しております。



院内研修

### フットケア外来

